

食べることはどのように倫理の問題になるのか

土屋 貴志

この小論の目的は、「食べる」という、一見倫理とは無関係に思われるごく日常的な行為が、今日においてどのように倫理的問題を含んでいるか分析することにある。この小論は、現代文明のもとにおける「食の倫理学」の序説の素描にすぎない。

I 私は何をどのように食べているか

まず、私の昨日の3食のメニューとその作り方を振り返ることから始めよう。

朝食：ジャムトースト、ミルクティー、ハムとモヤシの炒めもの。

食パンをオーブントースターで焼き、マーガリンとジャムをぬる。牛乳はマグカップに半分ほど注いで電子レンジで温め、電気ポットのお湯で入れた紅茶を注ぐ。ハムとモヤシは洗って水を切り、塩コショウを振ってフライパンで炒める。

昼食：サケ茶漬

冷凍しておいたご飯を電子レンジで解凍し、サケのフレークと佃煮と焼海苔をのせて、電気ポットのお湯で入れた日本茶を注ぐ。

夕食：ご飯、ジャガイモの味噌汁、サワラの西京漬、焼タラコ、千枚漬、切干漬

米をといで炊飯器にセットする。ジャガイモは皮をむいて1口大に切り、ナベの湯で煮て味噌を入れる。西京漬のサワラ（スーパーで買ったパックの切り身）と冷凍してあったタラコをガスレンジで焼く。千枚漬と切干漬は市販のものを盛りつけた。

このような食事は、今の日本ではそう特別でもない、ごくふつうの食事と思われる。そこで、この食事のなかで、倫理的に問題になりそうな特徴をざっと数え挙げてみることにする。

①自分で料理を作っていない

これらの料理は主に妻が作ってくれたものであり、私が自分で作ったものではない。私は